新議長・副議長就任

よろしくお願いします！

和水町議会議長　蒲池　恭一

先般の和水町議会議員選挙により、新しく12名の議員が誕生し、4月24日の臨時議会におきまして、議員各位のご推挙により、和水町議会第5代議長の要職に就かせて頂くことになりました。誠に身に余る光栄と同時に、その責任の重さに、身の引き締まる思いを致しております。

ご案内のとおり、郷土の誇りであります金栗四三氏を主人公とした、NHKの大河ドラマ「いだてん」が、来年の1月から放送されます。また、菊池川流域の2千年にわたる米作りが日本遺産に認定されるなど、この朗報に際し和水町として、町民の皆様方に、どれだけの果実を生み出すことが出来るのか、重要だと考えます。

そして、重要な町政課題への対応は待ったなしの状況であります。これらの課題に正面から向き合うためには、「オール和水」で取り組んで行くことが、必要であります。議会と致しましても、町民の皆様方の声を十二分に反映しながら、そして、この和水町をどのような形で、次世代にバトンタッチすることが、出来るのかが大事だと考えます。町との協力体制のもと、二元代表制の一翼を担う議決機関として、しっかりとその役目を果たしてまいります。

この度、新たなメンバーでスタートする議会が、町民の負託に応え、活発な議会活動を通じて、その使命を達成出来るよう、議会秩序の維持と公平公正な議会運営に努め、町政発展のため、微力ではございますが精一杯努力して行く所存であります。

また、「議会だより」を通じて町民の皆様方に活動状況をお伝えいたしますので、お一人でも多くの方々が手に取って読んで頂きますよう切望いたします。

最後になりましたが、町民の皆様には議会へのご理解・ご協力をお願いしながら、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ就任のあいさつと致します。

和水町議会副議長　森　潤一郎

この度、先の和水町議会臨時会に於いて副議長という重責をおおせつかり身に余る光栄と感じ、身が引き締まる思いがしております。

微力ながらも議長を支え和水町議会の発展に少しでも尽力できればと思っています。

議場には桜井元県知事の「似和為貴」の言葉が議長席の後ろにかかげられ議会の在り方が示されています。議会という場は議論の場ですがややもすれば議論が伯仲し、とげとげしくなってしまい感情的な口論になってしまうことがあります。感情的な口論になってしまった雰囲気を和らげることによって議論に戻すこと、まさに言い得て妙であります。

議会がチェック機関に終わることなく執行部に負けないような政策立案を行ない、町の発展につなげられたら言うことありません。我が町を含めたこれからの地方自治体は人口減の現象が加速度的に進んでいくことが予想されます。どういう政策が住民の定住促進につながっていくのか、これからはみんなで考えて実行していくことが必要です。

今度の議会は定数12人のうち新人議員7人というフレッシュな新町議会の誕生となりました。6月議会の一般質問も9人のうち6人が新人議員で、6人からは初登板の緊張感や意気込みがありありと伝わってきました。若い議員諸君が議会に新風を巻き起こし、町おこしの起爆剤となってくれることを心から期待します。

私も新議員のパワーをもらいながら住民福祉の向上にむかって副議長職をがんばりたいと思います。

平成30年度　一般会計補正予算

平成30年 6月 定例議会報告

18億7,081万1千円を追加!!

総額81億1,740万7千円に増額

和水町も、合併後13年目を迎え、３月25日に町長、議員の選挙が行われた。

改選後初の６月定例議会が６月８日から15日までの８日間の会期で開催された。

町長の施政方針演説、30年度一般会計補正予算など18議案（条例の一部改正４件、予算関係６件）と報告３件、教育委員会委員の任命など３件、その他２件が提出され、それぞれ承認決定された。

当初予算は、改選を控え、骨格予算だったため、今回肉付け予算となった。主な補正予算は菊水地区小中学校改修工事の請負費16億4,700万円、橋梁維持費2,080万円などとなっている。最終日に追加提案された「和水町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について」は賛成討論もあったが、反対多数で否決された。

一般会計・特別会計補正予算

会　計　名	減額・追加	歳入歳出予算総額
和水町一般会計	18億7,081万1千円追加	81億1,740万7千円
和水町国保会計	477万4千円減額	14億6,250万5千円
和水町特別養護老人ホーム事業会計	2,040万7千円追加	4億9,884万7千円
和水町簡易水道事業会計	942万3千円追加	6,002万4千円
和水町病院事業（収益的＋資本的）	8,322万5千円追加	10億4,262万円

6月議会議案審議

採決結果

条例：	5件
補正予算：	6件
人事：	3件
その他：	2件
報告：	3件
計	19件

町長提出議案一覧

議案番号	区分	議案名	審議採決の結果
議案第31号	条例	和水町新築住宅及び新築賃貸住宅に対する固定資産税の減免条例の一部改正について	原案可決
議案第32号	条例	和水町税条例等の一部改正について	〃
議案第33号	条例	和水町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	〃
議案第34号	条例	和水町デイサービスセンター設置及び管理に関する条例の一部改正について	〃
議案第35号	補正予算	平成30年度　和水町一般会計補正予算（第2号）	〃
議案第36号	補正予算	平成30年度　和水町国民健康保険事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第37号	補正予算	平成30年度　和水町特別養護老人ホーム事業会計補正予算(第1号)	〃
議案第38号	補正予算	平成30年度　和水町簡易水道事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第39号	補正予算	平成30年度　和水町春富財産区特別会計補正予算（第1号）	〃
議案第40号	補正予算	平成30年度　和水町病院事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第41号	その他	字の区域の変更について	〃
議案第42号	その他	定住自立圏の形成に関する協定の締結について	〃
諮問第1号	人事	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	〃
同意第18号	人事	和水町教育委員会委員の任命について	原案同意
同意第19号	人事	和水町農業委員の任命について	〃
報告第1号	報告	平成29年度　和水町一般会計繰越明許費繰越計算書について	報　告
報告第2号	報告	平成29年度　和水町特別養護老人ホーム事業会計繰越明許費繰越計算書について	〃
報告第3号	報告	平成29年度　株式会社 菊水ロマン館の決算報告について	〃
議案第43号	条例	和水町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	原案否決

請願等：	1件
その他：	1件
計	2件

議員提出議案一覧

議案番号	区分	議案名	審議採決の結果
	請願等	「生産性向上特別措置法」に基づく導入促進基本計画の策定及び固定資産税の特例措置に関する要望	採　択
	その他	閉会中の継続調査について（各委員会）	原案決定

議会議員委員会名簿

各委員会名	氏名
議　長	蒲池　恭一
副議長	森　潤一郎
総務文教常任委員会（6人）	委員長　池田　龍之介　副委員長　竹下　周三 蒲池　恭一　髙木洋一郎　白木　淳　荒木　宏太
厚生建設経済常任委員会（6人）	委員長　坂本　敏彦　副委員長　齊木　幸男 森　潤一郎　庄山　忠文　松村　慶次　秋丸　要一
議会運営委員会（6人）	委員長　髙木　洋一郎　副委員長　竹下　周三 池田龍之介　秋丸　要一　坂本　敏彦　齊木　幸男
議会広報調査特別委員会（6人）	委員長　森　潤一郎　副委員長　髙木　洋一郎 秋丸　要一　竹下　周三　坂本　敏彦　荒木　宏太
政治倫理調査会（6人）	会長　庄山　忠文　副会長　竹下　周三 髙木洋一郎　齊木　幸男　白木　淳　荒木　宏太
有明広域行政事務組合議会議員（2人）	池田　龍之介　荒木　宏太
監査委員	松村　慶次

6月定例会 賛否一覧表

賛否が分かれた議案だけを掲載
○は賛成　×は反対　－は欠席

議案		荒木宏太	白木淳	齊木幸男	坂本敏彦	竹下周三	髙木洋一郎	秋丸要一	松村慶次	庄山忠文	池田龍之介	森潤一郎	蒲池恭一
議案第43号	和水町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	※

※議長は可否同数または特別議決の時以外表決に参加しません。

討　論　議案第43号　反対・髙木議員・齊木議員／賛成・庄山議員

池田龍之介議員

組織の長は責任を取るために あるもの!!

問 町長は議員歴3期12年あるので、太いパイプがあるのか。町長はその太いパイプの方々に使われるのか、使うのか。

答 （町長）太いパイプを持っていると云うふうには今の段階では言えない。使われるのでなく、要望を伝え、わが町に利益になるようにしていきたいと思う。

問 使うと云う事ですよね、良く肝に銘じていただきたい。

問 上津田の件、懲罰規則に従って、職員は懲罰を科した。最高責任者である町長、自らは処罰の検討はされ、最終日に追加議案として上程の意思はあるか。

答 （町長）最高責任者としての責任は私にある。今後二度と起きないよう指導をした処である。それで決着をさせたいと考えている。

問 責任は自分が取ると云って、何も取らんじゃないですか。口先だけですか、見栄は切っておきながら逃げじゃないですか。そういうリーダーはいらない、責任を取るなら責任を取るべきではないか。

答 （町長）これに対しての町長としての責任、時期を見ながら対応したい。

問 時期を見ながらとはどういうことか。

答 （町長）精査し対応する。

問 精査したから、懲罰委員会を開き、規則に基づいて処分をしたわけでしょう。責任は自分が取る、最終日に追加議案として上程する意思はあるのか、ないのか。

答 （町長）町長として責任を取る事で対処する。

秋丸　要一議員

人口減少の歯止め策として定住促進策が大事だ！戦略的政策の必要性があるのではないか！

問 今後の町政運営において、学校問題以外で取組むべき最重要課題として、実現したい施策は。

答 （町長）7つの基本方針に向けて政策を進めているが、道路の整備や住宅用地の造成等は最優先の事項と考えている。定住促進を図るために住宅購入の助成等も重要だ。

問 人口減少は、社会にとって大きなリスクであり当町の存亡に関わる最重要課題だと思うが、人口減少の歯止め策として今後どのように具体策を講じるのか。

答 （まちづくり推進課長）25年後の当町の目標人口を6411人として推計し具体策は現在4つの総合戦略を策定し、施策の総合力により人口流出の抑制と出生数の増加を目指している。

問 私は定住促進策が一番大事だと思うがこのために町独自の戦略的政策の必要があるのではないのか。指針と目標を早急に策定すべきと思うが。

答 （町長）定住促進が一番大事であると全く私も同感。町として宅地の提供等の施策を打ち出し早急に予算化を図り進めて参りたい。

問 障害を持つ子どもに対する教育現場の状況について。

答 （教育長）当町では3種の特別支援学級として4校に設置している。将来社会参加を目指すために個々のニーズを把握しながら、学習や生活上の困難を改善するために必要な能力を培う教育を進めている。

問 教育環境の整備や質の向上を図るための今後必要な取組は。

答 （教育長）ハード面では、教育用ICT等の整備。ソフト面では、教職員の指導力向上だ。研修を深めることで子どもや保護者のニーズや願いに対応できる教育指導力の体制作りが課題だ。

森　潤一郎議員

菊水区域学校統廃合事業等について

問 菊水小・中学校開校時期は間違いなく平成32年4月に実施できるのか。

答 （町長）これ以上遅らせない覚悟で現在準備を進めているところだ。

答 （学校教育課長）現在32年4月の開校に向けて最終の設計、8月の着工を目指している。

問 現段階での共同調理場については考察資料となっており工事計画資料とはなっていない。どうしてか。

答 （町長）児童、生徒の食の安全確保の点から改築する考えだ。よりよい共同調理場の建設を検討して今度早急に議会に提案したいと考えている。

答 （学校教育課長）敷地の問題がネックとなっている。早急に解決して町長の意向に沿うように進めたい。

問 中学校・小学校の大規模改修工事に関して耐用年数はどのくらい見込めるのか。また、メンテナンスはどのくらいの年数でどのくらいの費用が必要か。

答 （町長）耐用年数は30年だ。

答 （学校教育課長）メンテナンスについては内部について20年、空調・照明等は15年で更新が必要。ただ耐用年数一杯までの期間何もしない状態でいると高額の費用がかかるのでメンテナンスには気配りを行い経費の節減を図る必要がある。

問 工事期間中の生徒たちの安心・安全について仮校舎は必要ないのか。

答 （学校教育課長）小学校については空き教室を利用しながら対応したい考えだ。中学校については教室を移動してもらうかたちで対応したい。保護者に対する説明は十分に行う。

坂本　敏彦議員

共同調理場はどうなるのか？

問 菊水区域小中学校共同調理場はなぜ、計画にないのか。

答 （教育長）一貫して食の安全と同時に子どもたちの健康を守るということから、これまでも前町長に教育委員会としてお願いしてきたが、諸般の事情により段階的に共同調理場は建築していきたいとの回答だった。

今回、高巣町政に変わり共同調理場の早期実現をお願いした。

答 （町長）当初の計画より予算がオーバーしても子どもたちの安心・安全には変えられない。

たとえ金額が変動してもやるべき問題であり、やる方針で早急に取り組んでいく。

問 改修工事期間中の児童・生徒への配慮は十分されているのか。

答 （学校教育課長）施工方法も以前と違い音のしない様な新しい工法に技術的にも変わっており子どもたち、保護者の皆様が安心して、なおかつ先生方の授業の進め方にも十分考慮し施工業者についても慎重に検討していく。

問 国際化に向けた幼稚園・保育園からの英語教育の実施はいつからの考えか。

答 （町長）幼児期からの英語教育の導入により英語への親しみ、聞く力、話す力、人間関係や表現力を身につけコミュニケーション豊かな子どもたちの育成をしたく、担当課による先進地視察、運営方法や費用面の確認など早期導入に向けて調整中である。

髙木洋一郎議員

住んで良かったまちづくりについて
＊家庭内保育への配慮を
＊あいのりくんの乗降拠点の追加を

問　政府は、来年10月から「幼児教育の無償化（3歳～5歳は完全無料、2歳までは条件付き無料）を表明した。町長は「保育料無償化」を公約に掲げたが、国に先駆けて実施する考えがあるのか。

答　（町長）保育料の無償化は、国の動向を見ながら検討する。

問　幼児教育無償化は、保育所等に預けている保護者だけを優遇する措置と思われる。無償化と併せて家庭内保育者に対する配慮が必要と考える。

答　（町長）無償化を受けての家庭内保育者に対する配慮は、検討を行っていない。在宅保育者への支援策として、一時保育や子育てひろばなどで対応している。

問　無償化は、保育所等を利用する児童が増加し、待機児童や保育士不足が懸念される。保育は介護と同様に大変な仕事であり、人材育成の仕事でもある。家庭内保育者に対して、在宅介護手当のような経済的支援について、再度、考えを問う。

答　（町長）検討する価値があると思うので、早急に検討したい。

問　春富地区（福田）には、歯科医院、郵便局、商店、集会施設やバス停があるものの、地域公共交通「あいのりくん」の乗降拠点がなく、利用できない状況にある。乗降拠点を増やす考えはあるか。

答　（まちづくり推進課長）あいのりくんの主な利用目的は、通院、買い物、金融機関である。地域公共交通会議を近々開催するので、利用し易いものとなるよう対応策や課題を議論する。

竹下　周三議員

和水町に於ける福祉の現状について

問　本町に於ける居宅介護の必要な方の実数と状況を問う。

答　（健康福祉課長）現在、65歳以上の高齢者4，025名の約2割の831名が、認定を受けており、施設系入所者が213名。残りの618名が居宅介護の必要な方となる。

問　無年金者や低収入者、身寄りの無い高齢者、認知症などで支援や介護が必要な方の現状について問う。

答　（健康福祉課長）要支援及び要介護1・2の認定者は、居宅サービス利用が中心で、訪問サービスや福祉用具、住宅改修サービス等を利用されている。

問　介護認定者の中で支援介護サービスを全く受けていない方の現状を問う。

答　（健康福祉課長）要介護3以上の居宅介護が困難な方は、施設入所サービスを利用されている。また、お茶の間筋トレ体操などの介護予防事業への住民参加を促している。要介護認定者831名中、95名が介護サービスにつながっていない人数と認識している。

提案　介護の認定と支援の狭間で、大変な状況に強いられる事案がある。つなぎを確実に配慮しながら見守る必要がある。地域、行政が一体となって知識の啓発活動や応援隊役を整えてはどうか。

問　和水町の誘致企業の現状を問う。

答　（町長）近年では、3件の企業の誘致がなされている。三加和地域では学校跡地活用がなされ、菊水地域では、ホテルの進出等がある。昨年度から和水町企業振興促進補助金を創設し、制度の整備に努めている。菊水地区の学校跡地へ企業誘致も視野に検討も進める。

答　（まちづくり推進課長）大企業誘致だけでなく、個人企業者の受け皿としても取り組む。

和水町企業等懇話会と連携して、企業の繁栄と町の振興に努める。

提案　企業様のご意見を伺い、動向をいち早く察知して事業の発展に寄与する事も大切である。

松村　慶次議員

町長の政治姿勢について

問　町づくりに対して、町長の思いは。

答　（町長）本格的な人口減少社会を迎え、地域住民が住み慣れた土地で、安心して住みたくなるまちづくりのため、子育て支援、教育の充実、定住化に向けた整備、福祉の充実、産業振興、災害に強いまちづくりを目指す。

問　学校給食を無償化にする方策は。

答　（町長）医療費の無料化は、高校生までされており、いろいろとソフト面については確立されている。給食費の無償化は、子育てに非常に役立つと考えており、財源の確保に問題点もあるが、是非実現したい。

問　定住促進策、企業誘致として菊水インター北側、前原地域を含めた地域の簡易水道、下水道の整備計画はあるか。

答　（町長）簡易水道、下水道の整備ができるならば、より効果的に地区の開発が進むと思う。

答　（建設課長）計画区域であるが、今後の工事にかかる費用、将来的なメンテナンス費用、費用対効果も十分検討しなければならない。

問　和水町の基幹産業である農業の方向性について。

答　（町長）高齢化が進み、地域営農をどう守っていくか不安が残る。地域の農業は地域の方々で守る事でないと先に進まない。今後、営農集団で取り組んでいただき、機械の共同利用による作業の共同化、組織づくりが大事であると思う。研修制度を設けて農業の発展につなげ、農地の集積と高度利用による経営の合理化を進めていきたい。

荒木　宏太議員

和水町の環境について

問　新体制となって第一に必要なのは環境づくりだと思う。庁舎内でのWｉ-Ｆｉ環境について今後考えておられるか。

答　（商工観光課長）現在、庁舎内ではフリーＷｉ-Ｆｉを設置している。和水町庁舎内で15分間1日4回は使用可能である。ただし、庁舎外の観光地のほうでは、まだフリーＷｉ-Ｆｉの導入には至っていない。

提案　現在フリーＷｉ-Ｆｉが接続してあるということで認識した。私を含め知らない方が多いと思う。フリーＷｉ-Ｆｉの表示を提案する。

問　バス通学による子どもたちの体力の低下への懸念、ストレスに対して配慮や調査は実施しているか。

答　（教育長）スポーツテストの結果を確認したが、バス通学と体力低下の相関関係はないと判断している。ストレスを感じているような点も見当たらない報告を受けている。年間2回、心のアンケートを実施している。

問　熊本県教育委員会が発行している特別支援学級担当者の為のハンドブックによると、「自閉症や情緒障がい者の対象とする児童の判断にあたっては医学的な診断も十分に検討した上で判断する」とあるが、現在和水町では医師の診断無しに支援学級に入れる現状にある。今後どう考えるか。

答　（教育長）年2回教育支援委員会を開催している。その中で町立病院の医師、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、学校の先生、こういう方々も入って検討している。

訂正（教育長追加答弁）

※教育支援委員会の中に病院の先生が構成員の中に入っていると報告したが、28、29年度は病院の先生は入っていない。

齊木　幸男議員

子どもの交通事故防止
空家対策・定住化に向けた対策
南小学校の旧プール跡地整備

問　交通混雑緩和になる江田高野線の開通の遅れをどう考えるか。

答　（町長）熊本地震等の影響で開通が遅れている。現時点では平成33年度の工事完成を予定している。

問　牧野小田線は交通量の激増が予想される。子どもの交通事故防止をどう考えるか。

答　（総務課長）街頭指導や交通安全教室を実施して、子どもの交通事故防止に取り組む。

問　和水町全域の道路ぎわに倒壊寸前の特定空家等と思えるものがある。

答　（町長）空家対策に積極的に対応する。

答　（税務住民課長）本年度は、空家対策計画の策定と空家対策協議会を設立し、今まで以上に法的根拠に基づいた指導と対策を進める。

問　町が平成14年に購入した菊水インター前の町有地の活用について。

答　（町長）この前原地区も含めた、町内の住宅環境整備の具体的計画を策定する。

問　南小学校の旧プール跡地の活用について。

答　（町長）地元の理解が得られれば、住宅用地として検討していく。

問　民家村・歴史民俗資料館は現在の状態で観光客を迎えるつもりなのか。

答　（町長）大規模改修の予定は無いが、町職員やボランティアにご協力頂き、経費を抑えて清掃や環境整備を行いたい。

その他の質問

1．町営住宅の子どもの安心安全を守る対策。2．町内の文化財を守ることについて（看板・標木の設置・寄付の活用）。3．地域創生・観光客誘致について（ネット配信の活用）。

第１回臨時議会報告　4月24日開催

平成29年度一般会計補正予算や条例改正など町長が専決処分（＊用語解説）した５件の承認と、平成30年度一般会計補正予算が可決されました。

主な補正予算は、大河ドラマ「いだてん」に関連する金栗四三ミュージアム関係に6,361万円、金栗翁遺品のレプリカ作成費330万円などです。

＊用語解説「専決処分」

本来、議会において議決すべき事件を首長が議会に代わって処分することで、次の５つの場合に限られています。

①議会が成立しないとき

②出席議員が議員定数の半数に満たないとき

③緊急を要するため議会を招集する時間的余裕がないとき

④議会が議決しないとき

⑤議会が首長に委任した事項

走り続けた92年！日本マラソンの父『金栗四三』

「黎明の鐘Ⅰ」

日本マラソンの父「金栗四三」は、明治24年８月20日に和水町中林に誕生しました。

金栗翁は玉名中学（現玉名高校）から東京高等師範学校（現筑波大学）に進学し、そこで初めてマラソンに出会うのです。東京高師の校長は、柔道の創始者として有名な嘉納治五郎です。嘉納校長は学生にスポーツを奨励していました。金栗翁は徒歩部（今で言う陸上部）に所属していました。

嘉納校長は、親交のあったクーベルタン男爵から第５回ストックホルム五輪（1912年開催）への参加を呼び掛けられ、その前年1911年の晩秋に国内予選会を開催し、派遣選手の選抜を行います。

金栗翁は、この国内予選会の20マイル競走で優勝します。記録は２時間32分45秒。当時の世界記録を27分も縮めるものでした。

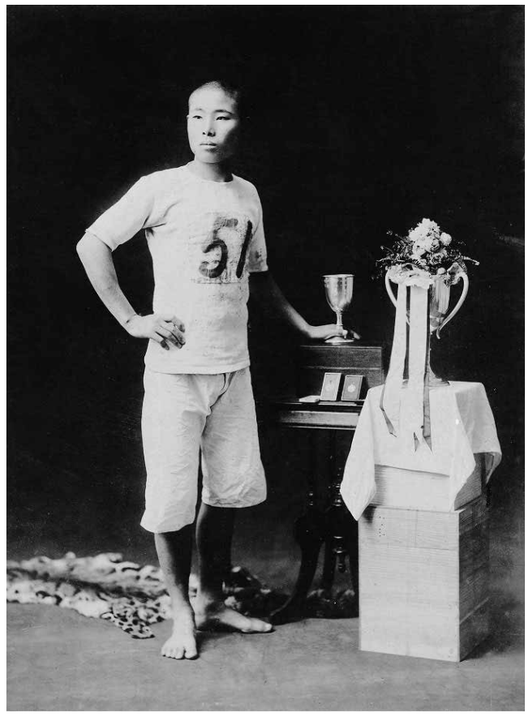
金栗翁はストックホルム五輪のマラソン競技の派遣選手として推挙されますが、参加を固辞します。

しかし、嘉納校長の「日本の運動競技は欧米各国に比べて相当の遅れをとっている。（中略）君の脚で、日本スポーツの海外発展のきっかけを築いてくれ。勝ってこいというのではない。最善を尽くしてくれればよいのだ。（中略）何事も最初は辛い。捨て石となり、礎となるのは苦しいことだ。だが誰かがその任を果たさなければならない。この五輪を逃したら次の機会は４年後にしかやってこない。金栗君、日本スポーツのための《黎明の鐘》となってくれ。」の言葉で決心したといわれています。…《　》は筆者挿入

今では、陸上競技、野球、サッカーやテニスなど多くのスポーツ選手が、海外に進出して活躍しています。それは金栗翁のストックホルム五輪への参加を決断して「黎明の鐘」になったからこそです。

参考文献：走れ25万キロ
（長谷川隆道著）

文責：髙木洋一郎



オリンピック国内予選会優勝写真

駿河港出発（左から３番目）